

WORKS

Empower&Energize

No131
2013/2

名東福祉会は名古屋市と日進市を中心に
知的障害者を中心とする福祉活動を行っています

名東福祉会

30周年にあたって

名東福祉会 後援会

会長 林 輝夫

● 創立30周年おめでとうございます

名東福祉会が、幾多の困難を乗り越えて今日に至ったのも、ひとえに、故加藤奈々枝会長と加藤久和理事長を中心に職員・家族会・ボランティア・後援会の方々、そして、行政・関係者・地域の方々の多大なご協力の賜物だと思えます。

振り返れば未来が見えると言われるよう、30周年記念行事は、みんなが30周年を喜び・感謝すると同時に、名東福祉会が行ってきたあゆみを未来に向けて、冷静に評価する絶好の機会だと思います。その事が、これからの名東福祉会を進化させる一つのヒントになると思えます。

● 30周年記念行事

平成23年から記念行事の準備を始めましたが、主催は後援会が行なう事となり、理事長・本部長・後援会がミーティングを重ね、何を行なうかを検討しました。その結果、利用者を中心にした記念フェスティバルの開催、写真を中心にした記念誌の発行、さらに、交流会とバザーをする事が決まりました。そこで、後援会のメンバーをAグループとBグループに分けて準備をする事になりました。

● 30周年記念フェスティバルの準備スタート（Bグループ）

記念フェスティバルを行なうに当たっての趣旨は、利用者が楽しめる事、そして、30周年を利用者と関係者全員が喜び、感謝すると同時に、30年間、大変お世話になりましたボランティアの方々へのお礼と感謝をする事が決まりました。

開催日は平成24年11月6日（火）、会場は名東福祉会本部近くの日進市スポーツセンターで行なう事が決まりました。



● 30周年記念フェスティバル

当日の流れは第一部、昼食、地元日進市と各方面で活躍していますまのけんいち氏らのお楽しみ音楽会、そして第二部と、午前中、午後とで行ないました。一部では、大変お世話になりましたボランティアの方々にお礼と感謝の意を込めて表彰をさせて頂きました。お楽しみのお昼食は、日頃お世話になっ

ています。ロハス様のおいしいお弁当を参加者全員で食べました。

二部では、各施設の発表会を行いました。メイトウ・ワークスは手話入りダンスとS M A Pの歌、太白ワークスは「歩いて帰ろう」と「デイズニナミナミナ」、はまなすはV6「バリバリB U D D Y」と花笠音頭、レジデンス日進はよさこい踊りと和太鼓演奏、みんなで歌おうでは「風が吹いている」などを全員で楽しく歌いました。

● ボランティアの方々

ありがとうございます

30周年を迎えられましたのも、ひとえに職員・家族会・関係者の数え切れないご協力のお蔭があつての事ですが、特に、献身的なボランティアの方々のご協力が、利用者は勿論、職員、家族会をどんなに勇気づけた事でしょう。本来にありますが、ありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

● 未来に向けての

後援会がなすべき事

一つ目は、多くの外部の方々へ後援会員になって頂くための活動を活発化させる事です。二つ目は、地域との連携を深めさせて頂くための活動を活発化させる事です。

来たるべき40周年に向けて、後援会には先に記した事を着実に粘り強く実行して行く事により、名東福祉会の発展の一翼を担って行かなければならないと思っております。



名東福祉会三十周年記念

フェスティバル開催にあたって

後援会Bグループ代表

加藤富美子

2010年の夏、名東福祉会三十周年を間近に控え、会長の奈々枝さんは病氣療養中の身でありながら、パソコンを病室に持ち込み執筆されていた。福祉会三十周年の思いを書き残したいという思いが痛いほど伝わってきたが、お見

舞いに伺った私たちは、只々、お身体の回復を願うばかりだった。とうとうドクターから執筆中止を告げられ、“しょうがないわね”といつもの穏やかな笑顔で話された。奈々枝さんの思いは叶わなかった。無念であつたろう。私はその時、三十周年を初めて意識した。

そして2011年の冬、三十周年記念の事業企画が立ち上がった。後援会が主体となり、Aグループは三十周年記念誌作成、Bグループはフェスティバル開催と決まった。

開催するに当たって、理事長さんから“利用者が中心となるイベントを開催してほしい”というイベントの方向性を役員全員で確認することから始まった。当初は8名、途中から3名が加わったが、各所長さんが企画から参加してくださったことは、内容が具体化していくに従って大きな推進力となった。

三十周年フェスティバルを知って貰うために、五月末の二日間、ロトにてプレイベントを開催した。内容は、記念誌作成のために集まった写真や資料の展示、六月オープン用のケアホームの内覧。イベントの資金の一助となれば



のしか湧いてこない。バトン（垂れ幕）作成に悪戦苦闘中、強力な助っ人登場（レジデンス日進の山口さん）でメイン会場を飾ることができた。

記念品のタオルは、はまなすの加藤さん、佐知さんが、デザインから値段の交渉等、積極的に関わってくれました。さてこのタオル、最後に全員で歌う「風が吹いている」の時に振り回したいと言う。みんなでのし紙をつけて袋に入れたのにー。袋が散らかるとの声もあつたけれど、山田部長の一言“やろう!!”

当日の朝、支援員の皆さんの動きに目を見張った。台車に山と積まれたマットが床に綺麗に並べられていく。その手際の良さ！これも三十周年の積み重ねか。これなら今日のイベントは成功間違いなし！

子供たちの移動も3台のバスで無事終了。参加者は総勢三百三十余名。各施設のお母さん手作りの力作、横断幕も会場を一気に盛り上げてくれた。

第一部のボランティアさんへの感謝表彰も和やかな中、厳粛に行なわれた。

お楽しみのお弁当の時間も瞬く間に終わり、まのけんいちさんと只井久美子さんのミニコンサート、そしていよいよ

よ各施設の晴れ舞台が始まった。トップはメイトウ・ワークス。色違いのお揃いのTシャツ、お母さんの手にはキラキラのうらわ、手作りの大きな幕から登場の演出に“やられたー”。天白ワークスは全員桃色の鮮やかなTシャツ、可愛いカチューシャを髪に、デイズニー気分満開。子供、親、職員、見分けがつかぬ程、踊り、ハネた。はまなすは色とりどりのTシャツで登場。手作りの花笠をかぶつての花笠音頭に意表を突かれたが、子供達の表情の可愛かったこと、見入ってしまった。レジデンス日進は毎月、國島先生に指導して頂いている太鼓のお披露目。“この人たちは本当に本番に強いんだから”と國島先生。揃いの法被が躍動した。いよいよ最終“風が吹いている”の歌に合わせてのタオル振り。やってる、やってる、みんな笑顔で。

ボランティアさん、職員の皆さん、三十周年のイベントに関わった全ての皆さんに感謝し、三十年の確かなあゆみを共有して無事時間どおり終えることができました。

すっかり片付いて、清掃を終えたアリーナ。この日のタイムキーパーの林和子さんご苦労様でした。企画から実

施に至る全ての段取りの素晴らしさに改めて感じ入りました。そして静かになったアリーナを前に、皆の笑顔で踊る様に安堵と共に清々しい気持ちで一杯になった。やっぱり奈々枝さんが見守っていてくださったんだとアリーナの天井を見上げた。



30年とって

節目にあたって

名東福祉会 理事長 加藤久和

今回の30周年記念事業はたいへんな作業でした。編集作業で集まった資料はすばらしいものでした。生き生きと生活ぶりを今に伝える写真、家族会独自の会報など。本部の資料室や各施設の書棚、あるいは会員の家庭にバラバラに散っていた貴重な資料をこつこつと集め、あるいはご家庭からご提供していただき、立派な記念誌として蘇らせてくださいました。その手腕と努力には敬意を表します。

名東福祉会の利用者みなさんをはじめ、家族会やボランティア総勢300人を超える人が集まるイベントは企画も実施も大変です。その準備に費やされた日数は膨大な数に上りました。職員も利用者とともによく楽しめる催しを実現していただきました。そうしてできた記念誌によって、30年にわたる私たちの名東福祉会の歴史を振り返ることができました。私は記念誌を見て「名東福祉会は利用者と親とボランティア

と職員がともに共同で作ってきた法人」である事を改めて確認した次第です。知的な障害がある人が家族の一員になりますと、本人もさることながら、家族もそれだけで苦勞せざるを得ません。通常でもたいへんな子育てです。それに加えて、障害があるわが子の命を守りとおすことは並大抵の事ではありません。これまでは名東福祉会は家族の協力を得る事ができ、人手が不足する中でうまくやってくる事ができま

した。もちろんこれからもそれはお願いしたいのですが、これからはひよつとすると、これまでどおりの絶大な協力を得る事が難しくなるかもしれせん。それは家族の高齢化が進んでいるからです。

50代から60代になると、障害がある我が子の介護と親の介護の両方を抱えます。70代になるとわが子だけではなく、自分自身が介護される事を心配しなければなりません。ご自身が介護を受ける時代になれば、子から見れば、親と兄弟の両方の介護の問題を抱えます。名東福祉会は30年の歴史があります。30年の歴史があるということは、とりもなおさず世代交代の課題に直面していることを意味します。まさに今、私たちは高齢化の問題を解決しなければならぬ瀬戸際にいるのだと思います。

では、その課題はどのように解決していくべきなのでしょう。まず第一に、これからもケアホームを継続的に設置していくことが必要となります。現在の社会情勢からすれば、補助金でケアホームを建設する事は難しいと思います。さらに土地の取得の問題があります。これまでは土地のご寄贈があ

りましたが、これからはそうもいかないでしょう。なんとか自前で用意していく必要があります。土地の購入費を考えると、今後のケアホームはもう少し小さな規模で設置していく事が必要になると思います。

具体的には6名定員、2階建て、エレベーター付きのケアホームを作る必要があると思います。このタイプのケアホームは全国的にみるとむしろ一般的な形式です。私たちは物件の基本的な仕様の他、利用者の障害の分布、職員配置、職員の交代方法、ケアマネージャーの配置、就労支援や通所の施設とのかかわりなど、どのように運営するのかについて早急に研究する必要があります。私は、この研究について調査を予算化し、調査委員を職員と後援会から選出し、見学を積極的に行い、いろいろな設計を検討し、実現に向けて前に進もうと考えています。

第二に、親亡き後の利用者の生活の質をどのように向上させるかについてです。私はここ数年、仕事の関係で名古屋から東京、横浜、そして名古屋、古屋から各地を転々としてきました。震災前沖縄と各地を転々としてきました。震災前に福島にもしばらく居住していました。出張でいろいろな場所や地域をまわり



ましたが、もう一度行つて住んでみたいと感じるところは、心おきなく話ができる人がいる場所であるということ

です。人の生活を豊かにするのは、生活をともにする人です。本人の生活の質を向上させるのは人との出会いです。利用者に、よい人生だと感じていただくために、人との出会いは大切です。名東福祉会が30年を向かえ、これから親から様々な地域の人へと出会いをバトンタッチしていく事が課題だと思います。人との出会いを増やすにはどうしたらいいのでしょうか。それもみなさんといっしょにこれから考えていきたいと思ひます。

私にはひとつの提案があります。それはボランティア通貨の創設です。ボランティア活動に対して感謝の意味を込めて独自の通貨をお渡ししていこうと思ひます。この通貨の名前は「メイト」です。名東福祉会だから「メイト」です。どんなボランティア作業でも1時間ボランティアを行えば、50メイトをお支払いします。(1メイトは1円としようと思ひます。)利用者の人が毎日行つて

われます。ボランティアも利用者も関係ありません。

メイトはお金では買えません。必ずボランティア行為が必要となります。現在のようになかなか売れません。施設で物を作ってもなかなか売れません。食べ物も売られています。その作業ができる人が限られます。その点、メイトならだれでもどんな作業でも売れる売れないとか市場価値は関係ありません。

メイトが使えるお店を施設内に作ります。レジデンスの屋上にカフェをつくりたいですね。奈々枝さんから名前をもらつて、「カフェドジュリエ」。ボランティアさんにここでお茶を飲んでもらえたら最高です。もちろん「ロト」や、太白ワークスのお米、後援会の健康茶も交換可能にします。施設内に新たにコンビニを開設して、ここに陳列されている商品と交換できるようにします。メイトをお支払いするのはボランティアさんだけではなく、利用者の作業にも工賃とは別に、作業や清掃作業について別途メイトをお支払いします。利用者が貯めたメイトでコンビニで買物ができるようにします。コンビニには、名東福祉会の各施設で作る

物の他、いらなくなったコミックや本やDVD、服や趣味のおもちゃやゲーム機、体にいいお菓子、ロトの製品などを置きたいです。

コンビニに並べる商品をボランティアの人がつくつてもいいし、施設の利用者がつくつても地域の人に積極的に寄贈していただいたものでもいいです。いろいろな人の善意と利用者の笑顔を交換する商品券、それがメイトです。利用者にとつても作業をすることほしいものが手に入るわけですから励みになると思ひます。

もちろん、使い古しのものやリサイクル品だけでは魅力的なコンビニはできません。そこで、一般的な商品の購入のため、寄付金も募集していきたいと思ひます。目標は年間200万円とし、広く一般から募集したいと思ひます。後援会のみなさんには、コンビニの運営についてお知恵と力を貸していただければと思ひます。利用者の人たちにとってどんな商品が魅力的なのかを調べていただきたいと思ひます。そうすれば、利用者のまわりには常に人が集まるようになると思ひます。それが今からやらなければならない人のバトンタッチだと思ひます。



「まず親が範を示さねば」が奈々枝前会長の口癖でもありました。私も家族の一員として、理事長として、そのよう

ご寄付ありがとうございます

平成 24 年 6 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日

◆メイトウ・ワークス

宇佐見ゆみ子様 近藤正俊 様

◆天白ワークス

伊藤鉦一 様 加藤力 様 谷本幾史 様 永宮淳 様 永宮賢治 様
長谷川聡 様 水谷義孝 様

◆はまなす

今津俊典 様 梅田満留 様 加藤公英 様 鴨下錡 様 木村恵子 様
後藤良昭 様 阪本須枝子様 佐知輝敏 様 白井孝史 様 杉原活好 様
鈴木勝人 様 中井昌誉 様 福井ちゑ子様 藤井保郎 様 藤木直人 様
牧公三 様 麦島厚 様 山田幸造 様

◆レジデンス日進

伊藤時義 様 高橋元彦 様 高本由紀子様 松岡正人 様 レジデンス日進家族会様

◆上ノ山ホーム

井口三智保様 伊藤和幸 様 伊藤健 様 大原田鶴子様 加藤芳郎 様
河津光子 様 北原良一郎様 谷本幾史 様 松原日出男様 吉田征一 様

エグチ薬局様 梶島博 様 武田篤樹 様 田中明日香様 水野保子 様
山口明子 様 千種区手をつなぐ育成会 様
医療法人 ふくしまファミリー内科 理事長 福嶋俊郎 様

名東福祉会のホームページ

ホームページアドレス <http://www.meito.or.jp>

●社会福祉法人 名東福祉会

〒 470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

●メイトウ・ワークス

〒 465-0055 名古屋市名東区勢子坊 2-1303
TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079

●天白ワークス

〒 468-0023 名古屋市天白区御前場町 327
TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416

●デイケア はまなす

〒 465-0054 名古屋市名東区高針台 1-911
TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552

●レジデンス日進・ハートフルアクト日進

〒 470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

●上ノ山ホーム

●児童行動療育センター「たけのこの家」
〒 470-0124 愛知県日進市浅田町上の山 14 番3
TEL 052-800-2203 FAX 052-800-2204

●焼き菓子の店「ロト」

〒 470-0124 日進市浅田町平池112-3
TEL 052-808-6555 FAX 052-808-6555